

吉橋高本の万治三年庚申塔銘文と記事の訂正について

藤 由美

『史談八千代』39号のP22とP27に掲載した「吉橋の庚申塔」の銘文について、房総石造文化財研究会の早川正司副会長に拓本をお見せしたところ、銘文の読み間違いがわかりましたので、下記にとおり訂正します。

P22 右上 No.1 の銘文欄

(誤) 為庚申待現当二世悉地成就処 誦人救十八一結諸衆 敬白(人名 18)

(正) 為庚申待現当二世悉地成就処 講人数十八一結諸衆 敬白(人名 18)

P27 5～6 行目

(誤) 上部に「万治三天庚子十月吉 為庚申待現當二世悉地成就処 誦人救十八一結諸衆 敬白」

(正) 上部に「万治三天庚子十月吉旦 為庚申待現當二世悉地成就処 講人数十八一結諸衆 敬白」

P27 7～8 行目

(誤) 「誦人救十八一結諸衆」と記されており、「一結」すなわち、仏と結縁することで 18 名諸衆が読誦の功德により救済されることを意味する願文であった。

(正) 「講人数十八一結諸衆」と記されており、「講」の「人数十八」人が「一結」すなわち、仏と結縁することにより「現当二世悉地成就」されることを意味する願文であった。

「講人数十八一結諸衆」の「講」と「数」の字は異体字、また「吉」の下「丿」は「日」の略字でした。



以上、読者の皆様には謹んでお詫びするとともに、ご指導いただいた早川正司氏に感謝申し上げます。